

しょうけい館通信

6/3日 ▶ 10/13日祝

戦後80年特別企画展「武良茂(水木しげる)の戦争体験」

7/19日 ▶ 9/7日祝

ゲゲゲの鬼太郎 館内謎解きラリー
「水木しげるが残した言葉を探そう!」

7/19日 ▶ 9/7日祝

夏休み3館めぐりスタンプラリー

7/23日 ▶ 10/19日祝

テーマ別展示「心の傷を負った兵士」
併設「寄贈資料紹介」

8/13日 ▶ 14日祝・15日祝

語り部 夏の集中講話会

9/14日・10/12日祝

語り部定期講話会(9・10月)

資料寄贈のお願い

戦傷病者の皆様に関する資料(写真、回想記、軍装品、摘出弾、義肢、受傷や恩給に関する文書等)、奥様やご家族に関する資料(日記、写真等)、傷痍軍人会、妻の会に関する資料(会旗、名簿等)をお持ちの方からのご連絡をお待ちしております。

資料は館で大切に保管し、継承事業に活用させていただきます。

証言映像収録のお願い

証言映像は、戦傷病者とご家族の戦中・戦後の労苦を伝えるための貴重な資料として活用されます。引き続き当館では、証言映像の収録を進めて参りますので、年齢、地域にかかわらず、戦傷病者とそのご家族で撮影にご協力いただける方は、ぜひ当館までお知らせ下さい。

ご来館のみなさまへ



地下鉄を利用の場合

- 東京メトロ
九段下駅(東西線・半蔵門線)
7番出口より徒歩3分、5番出口より徒歩5分
- 都営地下鉄
九段下駅(新宿線)
7番出口より徒歩3分、5番出口より徒歩5分

バスを利用の場合

- 都営バス
九段下(飯64系統)より徒歩4分
- 千代田コミュニティバス
千代田保健所(九段下駅)より徒歩5分

※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

当館は、戦傷病者とそのご家族が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦についての証言・歴史的資料・書籍・情報収集、保存、展示し、次世代の人々にその労苦を知る機会を提供する国立の施設として、平成18年に開館し、令和5年に移転しました。



www.shokeikan.go.jp

東京都千代田区九段北1-11-5 グリーンオーク九段2階

Tel: 03 (3234) 7821 Fax: 03 (3234) 7826

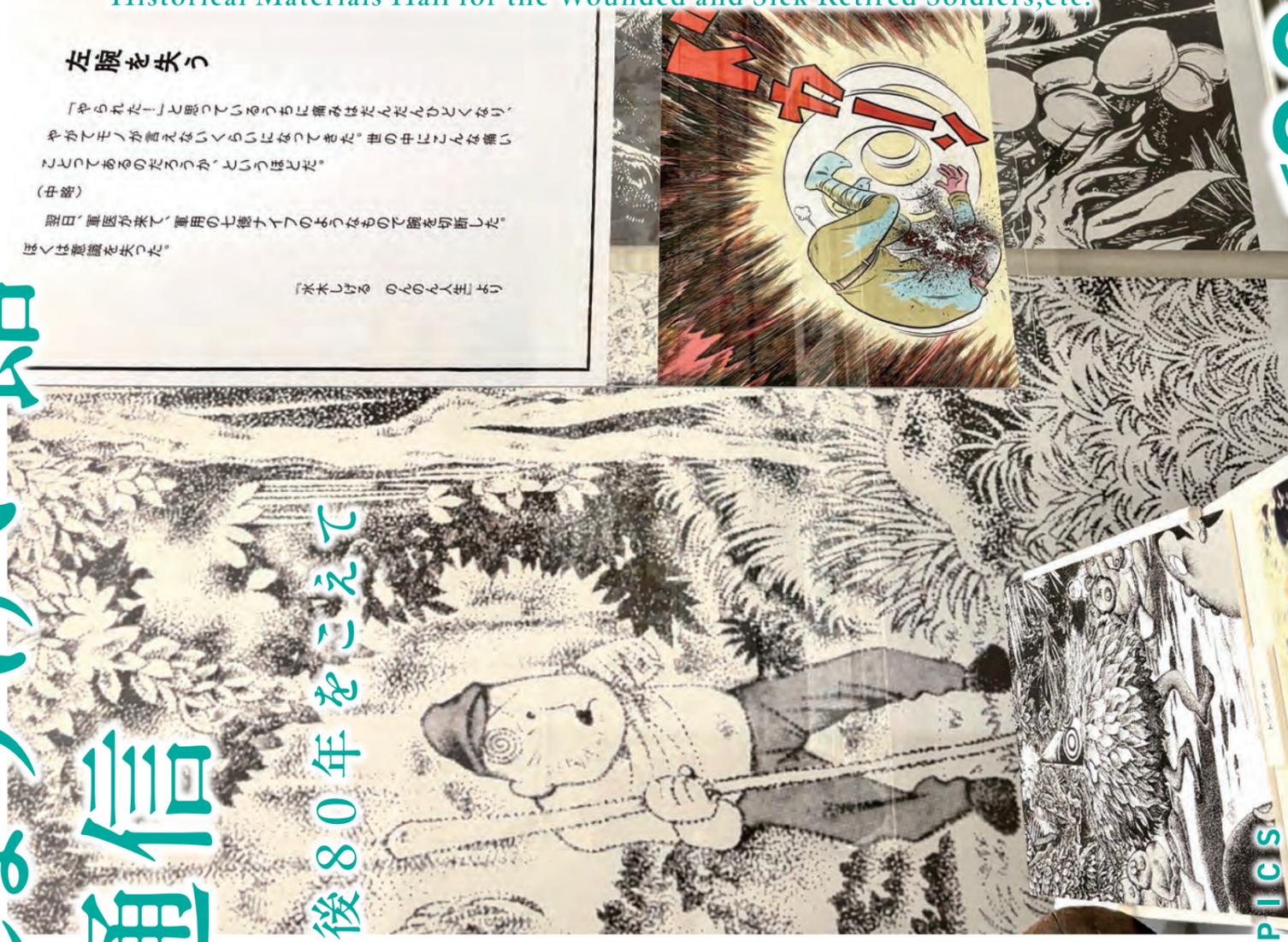
開館時間: 10:00~17:30(入館は17:00まで)

休館日: 毎週月曜日(祝日または振替休日の場合はその翌日)



しようけい館 通信

戦後80年をこえて



左腕を失う
「やられた!」と思っているうちに痛みはだんだんひどくなり、やがて声も言えないくらいになつてきた。世の中にこんな痛いことのあるのだらうか、というほどだ。
(中略)
翌日、軍医が来て、専用の七徳ナイフのようなもので腕を切断した。ぼくは意識を失った。
「水木しげる のんの人人生」より

Historical Materials Hall for the Wounded and Sick Retired Soldiers, etc.

TOPICS

P2 令和7年度 特別企画展

P3 常設展示コーナー紹介「ある兵士の手記」

P6 インタビュー 次世代の語り部として活動する思い

2024

August 2025

戦争によるけがや病気で障害を負うなどした戦傷病者には、療養手当などを支給する戦傷病者手帳が交付されてきました。ピーク時に15万人以上であった交付者数は、年を追うごとに減少し、今年ついに秋田県、山形県では交付者が一人もいなくなりました。

しょうけい館では、かねてより戦争体験者不在の時代に備えて証言の映像記録や次世代の語り部の活動を進めてきました。

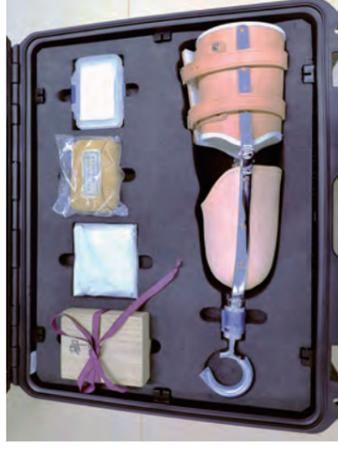
戦後80年の今年、思いを新たにこの戦傷病者労苦継承の活動を続けてまいります。

▶ 新たな活動の紹介

オンライン学習支援プログラム

今年度より中学・高校の団体向けプログラムとして、オンライン学習支援プログラムを実施しています。このプログラムは、学校への資料レプリカの貸出と、オンライン会議システムを用いたスタッフによる解説をセットにしたものです。実物資料を忠実に再現したレプリカを手元で観察しながら、戦争当時の時代背景や戦傷病者に関する解説を聞くことができますので、中学・高校生により深い理解を促せる構成となっております。

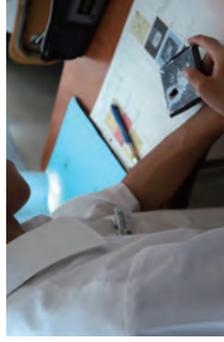
また、オンラインでの実施を前提としておりますので、どこでも利用できます。インターネットが接続できて、オンライン会議が利用できる環境であれば場所を問いません。平和学習や総合的な学習の時間の時間を利用して下さるプログラムをお探しの学校関係者の方がいらっしゃいましたら、ぜひお申し込み下さい。



貸出用の資料レプリカ



プログラム中の学校の教室



レプリカ(弾の跡のある煙草ケース)に触れる

▶ テーマ別展示

心の傷を負った兵士

先の大戦で心の傷を負った兵士の概要や、国府台陸軍病院、傷痍軍人療養所を紹介します。また、精神疾患となった戦傷病者が制作した作品などを展示しています。

会期 令和7年7月23日(水)より10月19日(日)まで
会場 しょうけい館 3階常設展示室テーマ別展示コーナー
時間 10:00～17:30(入館は17:00まで)

下総療養所に入所していた戦傷病者の作品



▶ 特別企画展

戦後80年 特別企画展

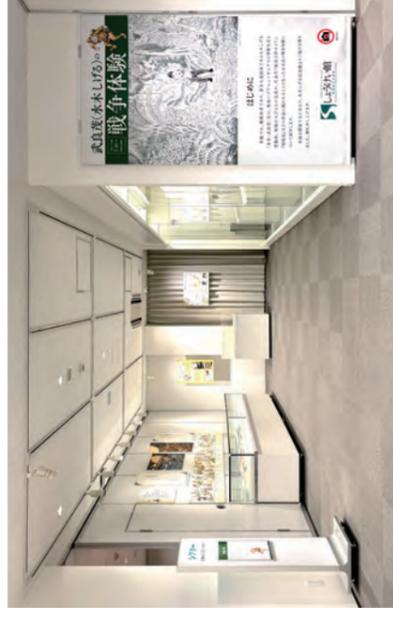
武良茂(水木しげる)の戦争体験/水木しげるが残した言葉を探そう! (ゲゲの鬼太郎 館内謎解きラリー)

終戦から80年が経過した今年、戦争体験を後世に伝えていくことは、ますます重要な課題となっております。戦傷病者やその妻が、どのような戦争体験をしてきたのかを振り返り、考えていくことも、戦争を経験していない私たちの役割となっております。

本展では、戦傷病者であり、著名な漫画家である水木しげる氏(本名:武良茂)の、戦地パピアニューギニアでの軍隊生活と受傷病、現地の人びととの交流や、代表作『総員玉碎せよ!』、『昭和史』などの作品に描かれることとなった水木氏の戦争体験について紹介します。

会期 令和7年6月3日(火)より10月13日(月)まで
会場 しょうけい館 2階企画展示室
時間 10:00～17:30(入館は17:00まで)

特別企画展



展示資料



ゲゲの鬼太郎館内謎解きラリー





常設展示コーナー紹介 ある兵士の手記

当館の常設展示室では、各コーナーの冒頭に「ある兵士の手記」と題した導入画像を設けています。この画像は、戦中から戦後に至る歴史の大きなうねりの中で、戦傷病者が辿ってきた道のりを一人の名もなき「兵士」の人生として、見る人に追体験してもらったことを意図したものです。体験を伝える言葉（手記）と画像を織り交ぜて、出征や受傷、療養生活、社会復帰といった各局面における彼らの労苦と葛藤を、簡潔に伝えています。ここではその画像の一部をご紹介します。

1 戦地へ向けて



入営した部隊では、慣れない集団生活、厳しい訓練、同年兵と共に兵士として教育をうけた。



地域の人に見送られ、大勢の兵士を乗せた汽車は港へ着いた。港を出た船は南へ向かった。

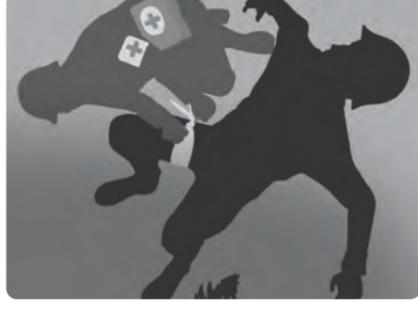


戦地では過酷な日々が続いた。昼はジャングルに潜み、夜は道なき道をゆく日々が続く。

2 戦地での受傷・治療



全身に激痛が走った。右足が焼けるように熱い。「やられた!」と叫んだ。



うすらぐ意識の中で衛生兵に励まされながら、応急止血をしてもらう。翌朝には仮包帯所に運ばれた。



麻酔もなく、身体をおさえつけられ、手術の激痛に耐えた。

3 搬送・戦時下の療養生活



野戦病院からさらに大きな病院へうつされ、やがて本土へ送り返されることが決まった。

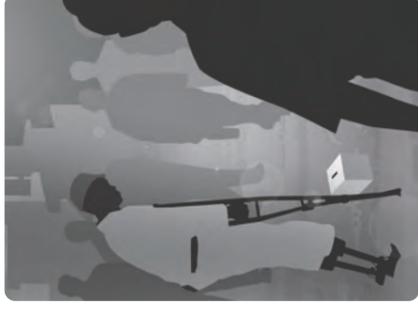


再び日本の土を踏んだ。しかし自分の身体は以前のものではない。病院でまた手術を受けた。



義足で農業を手伝った。一人前に働きたいが、出征前のようにには身体が動かない。

4 家族とともに



病気で入院している戦友を見舞った帰り、街頭の白衣募金者に見覚えのある顔を見つけた。



家と畑の往復で、無我夢中の毎日だった。今でも時どき傷口がうずく。くじけそうになった時は、いつも妻が支えてくれた。



もう二度とこのような戦争のない平和な世界であることを願いたい。わたしのような経験をするのは、わたしの世代で終わってほしい。

次世代の語り部講話会 失明戦傷病者と戦盲歌

しょうけい館では、戦傷病者とそのご家族の体験を戦後世代の語り部が語り継ぐ、次世代の語り部活動を行っています。その活動の1つに毎月第二日曜日に開催される定期講話会があります。

2025年6月の定期講話会では、語り部による講話に加え、戦争で失明した戦傷病者の苦勞を詳しく紹介するため、歌人の佐佐木頼綱さんと歌手の神戸薫子さんをゲストに迎えて講話会を実施しました。佐佐木頼綱さんの曾祖父、佐佐木信綱さん（歌人・国文学者）は戦時中、戦地で失明した元兵士たちを慰問し、短歌創作の指導を数多くおこなってきました。そして、元兵士たちの作品を合同歌集としてまとめ、刊行しました。



戦盲歌の解説をする佐佐木さん



歌唱を披露する神戸さん

この歌集に作曲家の越谷達之助さんが曲を付け楽譜に起こしたものが『歌曲集 戦盲歌』になります。佐佐木頼綱さんと神戸薫子さんは、この戦盲歌を今に伝える活動をしています。

戦後80年を迎える中、一人でも多くの方に戦盲歌について知っていただきたいという思いから、佐佐木さんと神戸さんご協力のもと、昨年度に続いて実施しました。

講話会では、戦盲歌の解説を佐佐木頼綱さんにしていただき、神戸さんには素晴らしい歌をご披露いただきました。失明という受け入れ難い現実と向き合いながらも、懸命に生き抜いた方々が短歌に込めた想いや平和への願いなどを知る機会となりました。

参加者の感想

10代女性

学校などでは聞けない話を一から丁寧に話してください、より興味が持てました。



10代女性

40代女性

語り部講話と戦盲歌の解説、歌唱を組み合わせることで、双方の理解が深まりました。



40代女性

50代男性

今まであまり取り上げることがなかったテーマだと思えます。そして、神戸さんの歌が素晴らしかったです。戦盲歌の存在を知らなかったので自分でも調べたいと思いました。



50代男性

次世代の語り部として活動する思い

次世代の語り部は、しょうけい館で3年間の研修を修了した21名から構成されています。館内の資料をもとに、当時の社会状況などを交えながら戦傷病者の体験を伝えています。

今回は、小口さんに語り部を目指したきっかけや、活動に対する想いを伺います。

▶インタビュー

一語り部を目指したきっかけを教えてください。

幼い頃より、祖母がニューギニア戦で24歳の若さで亡くなった息子（私にとっては伯父）の冥福を祈る姿を見まわした。伯父の遺骨は、わずか小指の骨だけを戦友が持ち帰ってくれたことで日本に帰ってきたという話を聞き、子供心に衝撃を受けました。その後も戦争の悲惨さが心から離れることはなく、より深く理解するために大学で昭和史を学び直しました。その際、先輩からしょうけい館の語り部事業について聞き、「私も伝えたい!」と強く思い、語り部を目指しました。

一今までの講話活動の中で印象に残っていることを教えてください。

息子の母校である地元の中学生の中学生へ向けて、講話をする機会がありました。講話の前に、「私も同じ駅から来た」、「みんなが歌っている『大地讃頌』は30年以上前から歌い継がれている」と伝えたとたん、中学生の意識と視線がこちらを向き、私の声と思いを受け取るという姿勢を感じました。中学生にとって身近な存在として講話できたことはとても貴重な体験でした。後日、お礼の手紙をいただき、とても嬉しい気持ちになりました。

一語り部講話を通して伝えたいことを教えてください。

戦後80年を迎え、過去の戦争の記憶が遠のいていくことを実感しています。私の祖母は戦死した息子の慰霊のため、戦後ニューギニアを訪れています。当時の写真を見ると、とにかく亡き息子の最期の地に降り立ちたかたという思いが伝わります。それは母が子を思う真実の気持ちでしょう。

戦争は恐ろしいと目を背けるのではなく、真実を正しく知ることが必要だと考えています。今後も、気持ち相手に届くような講話を心がけ、語りによって平和への思いが繋がっていくことを願っています。



小口 あや子 (おぐち あやこ)

2017年にしょうけい館の語り部に応募。3年間の研修を経て次世代の語り部として活動を開始。趣味は街道歩きと史跡巡り。既に東海道は徒歩で制覇し、現在は日光街道に挑戦中!講話では、幼い時に沖繩戦に巻き込まれ、片足を失ってしまった戦傷病者の話をしている。

語り部の講話は毎月第二日曜日に開催する定期講話会のほか、団体見学などで聴くことができます。詳細はホームページをご確認ください。

イベントスケジュール(予定)

10/15 ㊄ ▶ 令和8年 3/1 日

しょうけい館証言映像展 証言がつなく あの日の記憶

10/21 ㊄ ▶ 令和8年 2/23 日 祝

テーマ別展示 「援護のあゆみ」

令和8年 3/3 ㊄ ▶ 5/31 日

春の企画展 「戦傷病者と結核」

令和8年 2/25 ㊄

新常設展示 「心の傷による労苦」

▶ ~4月(予定) ※テーマ別展示コーナーで拡充展示をおこないます

令和8年 1/11 日・2/8 日・3/8 日・4/12 日

語り部定期講話会(1~4月)

戦傷病者・ご家族へのお知らせ

資料寄贈のお願い

戦傷病者の皆様に関する資料(写真、回想記、軍装品、摘出弾、義肢、受傷や恩給に関する文書等)、奥様やご家族に関する資料(日記、写真等)、傷痍軍人会、妻の会に関する資料(会旗、名簿等)をお持ちの方からのご連絡をお待ちしております。

資料は館で大切に保管し、継承事業に活用させていただきます。

証言映像収録のお願い

証言映像は、戦傷病者とそのご家族の戦中・戦後の労苦を伝えるための貴重な資料として活用されます。引き続き当館では、証言映像の収録を進めて参りますので、年齢、地域にかかわらず、戦傷病者とそのご家族で撮影にご協力いただける方は、ぜひ当館までお知らせください。

ご来館のみなさまへ



地下鉄を利用の場合

- 東京メトロ
九段下駅(東西線・半蔵門線)
7番出口より徒歩3分、5番出口より徒歩5分
- 都営地下鉄
九段下駅(新宿線)
7番出口より徒歩3分、5番出口より徒歩5分

バスを利用の場合

- 都営バス
九段下(飯64系統)より徒歩4分
- 千代田コミュニティバス
千代田保健所(九段下駅)より徒歩5分

※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

当館は、戦傷病者とそのご家族が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦についての証言・歴史的資料・書籍・情報収集、保存、展示し、次世代の人々にその労苦を知る機会を提供する国立の施設として、平成18年に開館し、令和5年に移転しました。



www.shokeikan.go.jp

東京都千代田区九段北1-11-5 グリーンオーク九段2階

Tel: 03 (3234) 7821 Fax: 03 (3234) 7826

開館時間: 10:00~17:30(入館は17:00まで)

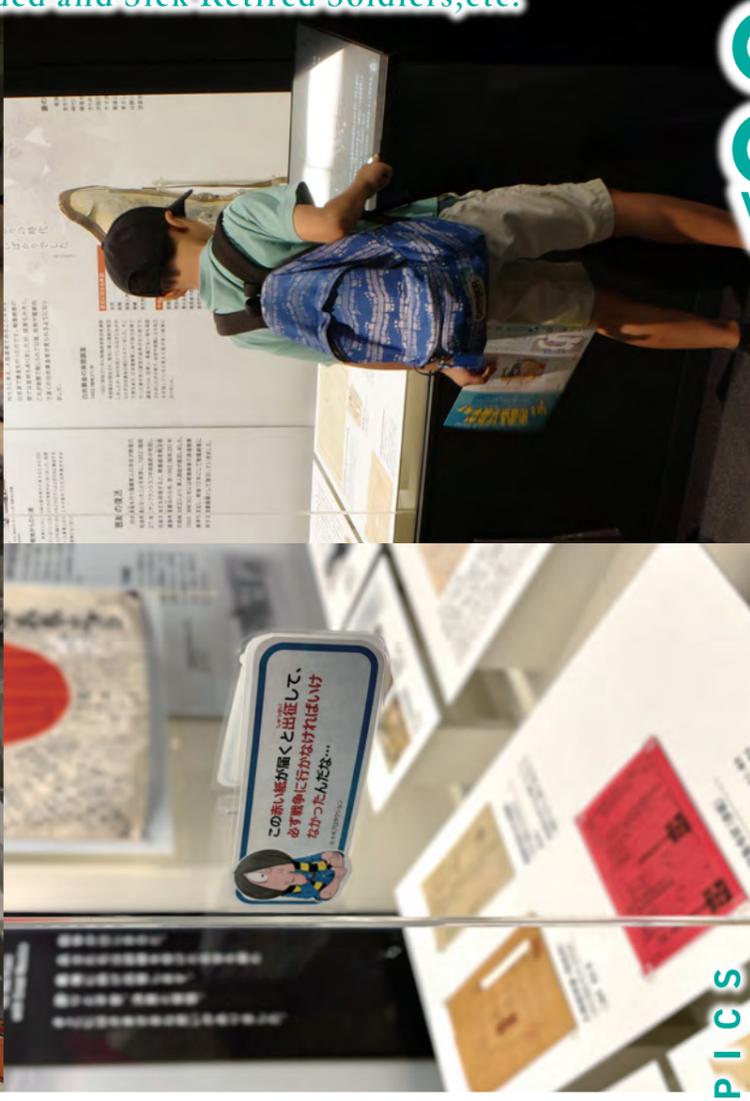
休館日: 毎週月曜日(祝日または振替休日の場合はその翌日)



戦傷病者史料館

しょうけい館 通信

戦後80年をこえて



TOPICS

- P2 令和7年度 特別企画展
- P3 図書室から「利用のご案内」
- P5 関連施設との連携

Historical Materials Hall for the Wounded and Sick Retired Soldiers, etc.

Vol. 0005

December 2025

戦後80年である今年の夏は、例年になく多くの方々に来館いただきました。

戦後80年特別企画展「武良茂（水木しげる）の戦争体験」や「ゲゲゲの鬼太郎館内謎解きラリー」、「語り部夏の集中講話会」は、大盛況のうちに会期を終えることができました。

秋からは、館設立以来収録してきた証言映像に関する企画展の開催や、デフリンピックの開催に合わせた語り部講話の字幕表示など、多様な取り組みをおこなった1年となりました。

※表紙写真 上（戦後80年特別企画展「武良茂（水木しげる）の戦争体験」と「語り部夏の集中講話会」）

下（「ゲゲゲの鬼太郎館内謎解きラリー」で常設展示室のガラス面に付けたクイズのヒント（写真左）、参加する小学生の来館者）

▶▶ 次世代の語り部講話の活動紹介

オールウェルカムTOKYOへの参画

2025年の秋、東京で「世界陸上」と「デフリンピック」の2つの国際大会が開催され、多様な人々が社会に参画する意識が高まりました。こうした中、両大会の開催時期を中心とした9月～12月まで、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団は、障がいの有無や言語の違いを超えて誰もが芸術文化に触れることができるように「オールウェルカムTOKYO」というキャンペーンで、さまざまな鑑賞の

サポート等を実施してきました。

当館もこの取り組みに賛同し、毎月第2日曜日開催の語り部定期講話会において、語り部が使用する画像やスライドに講話内容の字幕を表示する取り組みを実施しました。



（写真1）
白衣の病院着姿だったことから「白衣募金」と呼ばれ、戦後の一時期の象徴でもありました。

語り部が使用するスライドに講話内容の字幕を表示

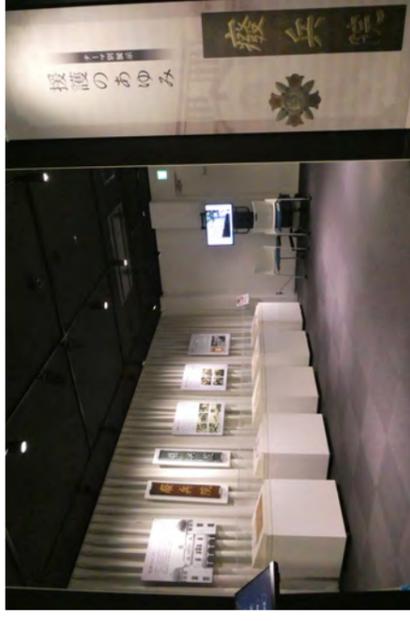
▶▶ テーマ別展示

援護のあゆみ

援護行政のはじまり、国による戦傷病者に対する戦中の援護政策の充実、戦後のあゆみや戦傷病者同士の支え合いについて、資料とともに振り返ります。

会期 令和7年10月21日（火）より令和8年2月23日（月）まで
会場 しょうけい館 3階常設展示室テーマ別展示コーナー
時間 10:00～17:30（入館は17:00まで）

展示風景



▶▶ 特別企画展

戦後80年 特別企画展

しょうけい館証言映像展 証言がつなぐ あの日の記憶

戦後80年を迎えた今年、戦争を体験した世代の高齢化は進み、いよいよ戦争体験者不在の時代が到来しつつあります。戦争体験の継承がますます重要な課題となる中で、彼らの体験を知る方法の一つに、証言映像があります。

当館は、戦傷病者やそのご家族、軍医や従軍看護婦などの医療関係者などを対象に、これまでに約200本の証言映像を収録してきました。証言映像は、体験の内容はもちろんのこと、それを語りかける表情に至るまで記録されているため、より実感をもって彼らの体験や思いに触れることができます。

本展では、映像を収録した証言者をパネルで紹介するほか、証言者から寄贈された資料を展示しています。また、シアターでは数十名の戦傷病者の証言映像を、テマごとに再編集した総集編映像を上映しています。ぜひ生きた声を通して戦傷病者について知ってもらえればと思います。

会期 令和7年10月15日（水）より令和8年3月1日（日）まで

会場 しょうけい館 2階企画展示室

時間 10:00～17:30（入館は17:00まで）

チラシ



特別企画展



展示資料



利用のご案内

図書室では戦傷病者とそのご家族が体験した戦中・戦後のご苦労に関する体験記や、医療・衛生史、部隊史など戦争に関するさまざまな書籍を閲覧していただけます。
また、情報検索端末では資料の検索に加え、証言映像を視聴することもできます。
しょうけい館図書室はみなさまのご利用をお待ちしております。

- しょうけい館の図書室は2階にあり、どなたでも利用することができます。



- ▶ 図書室内には約4,600冊の書籍がならび、自由に閲覧することができます。それ以外に貴重書など約5,000冊を閉架書庫に所蔵しています。閉架書庫の書籍を閲覧するためには申請が必要です。
※書籍の館外貸出はおこなっておりません。

- 書籍は内容ごとに分類されています。



- ▶ 書籍は、日本十進分類法(NDC)をもとに、歴史、社会科学、医療、技術などに分類しています。その他、戦傷病者史料館として体験記、恩給関係、部隊史、国防・軍事なども見出しを設けて配架しています。
また、幅広い世代の方に活用していただけるよう、コミックや絵本のコーナーもあります。

▶▶ 注目書籍コーナー

体験記

さまざまな立場の方が、ご自身の体験した戦争について書かれた書籍のコーナーです。

- *戦傷病者体験記(戦争がもたらした苦痛や、病気にあった方の体験記)
- *海軍/医療・衛生体験記(戦時中、海軍で医療に従事されていた方の体験記)
- *陸軍/医療・衛生体験記(戦時中、陸軍で医療に従事されていた方の体験記)
- *看護婦体験記(戦時中、看護婦をされていた方の体験記)
- *戦争体験記(従軍経験の有無にかかわらず、戦争にまつわる体験記)



戦傷病者の作品

戦傷病者の方が詠んだ詩歌、描いた画集などさまざまな作品のコーナーです。戦傷病者でもある『暮らしの手帖』創刊者の花森安治さんの作品もこのコーナーに配架されています。



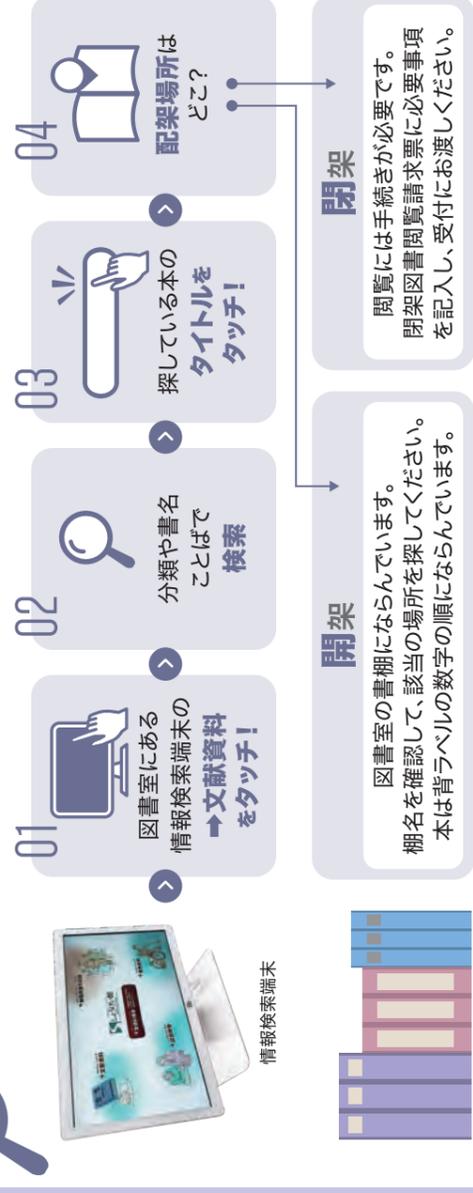
水木しげる

戦傷病者でもある、漫画家の水木しげるさんに関連する書籍を集めたコーナーです。戦争漫画や、ご自身の手記、また水木さんご家族が書かれた手記も配架されています。



Tips

～ 情報検索端末を使った書籍の探し方 ～



情報検索端末では、書籍の検索以外にも、**実物資料**や**戦傷病者の記録**が検索できます。また、**証言映像**を視聴することもできます。

※書籍は、しょうけい館ホームページの「図書検索」ページでも検索することができます。

▶▶ 国立ハンセン病資料館との共催企画

「戦後80年 戦争とハンセン病」

2025年7月19日(土)から8月31日(日)まで、国立ハンセン病資料館において、ギャラリー展「戦争とハンセン病」を開催しました。先の大戦とハンセン病をめぐる日本の歴史が、ハンセン病患者の隔離を強化し、戦争が隔離下の被害をより深刻にしたことを伝えるという趣旨のもと、しょうけい館は、ハンセン病となった戦傷病者の資料9点と、証言映像3本を展示・上映しました。

また関連イベントとして、学芸員によるトークイベント「戦争の記憶に触れ、それを継承すること」(7月26日)、しょうけい館の次世代の語り部による講話(8月2日、8月10日)なども開催しました。

展示、イベントともに多くの来館者にお集まりいただきました。多磨全生園に隣接する国立ハンセン病資料館という場所で開催されたことで、ハンセン病に関する常設展示等も見学することができ、理解が深まる催しとなったのではないかと思います。



チラシ

▶▶ 国立病院機構小倉医療センター 里帰り展示

2019年に、独立行政法人国立病院機構小倉医療センターから、13箱の箱出弾を寄贈いただきました。この資料は、しょうけい館の2022年度夏の企画展「戦場の軍医と衛生兵」にてお披露目の展示をおこないましたが、今年度は小倉医療センターが開院150周年を迎えるにあたり、1箱が里帰りして展示されることになりました。

この展示では多くの人に、病院の歴史と医師や患者の苦勞を知っていただく機会となったに違いありません。



展示風景

画像提供:小倉医療センター

▶▶ 3館連携企画展

戦傷病者の労苦を伝える 秋田展

2025年9月29日から10月7日まで、秋田県立美術館県民ギャラリーにて、帰還者たちの記憶ミュージアム・昭和館とともに連携企画展を開催しました。今回の展示では、義肢・体験記・証言映像という3つのテーマで、戦傷病者の労苦に関する資料とその体験を紹介しました。地元秋田の戦傷病者を取り上げたこともあり、同じ地域の方々も戦争によって苦勞してきたことに思いを巡らせていただけたようです。



展示風景

▶▶ 夏のイベント

令和7年度 こども霞が関見学デー

毎年夏休みに霞が関で開催される「こども霞が関見学デー」は、こどもたちを対象に職場見学や業務説明などをおこない、親子のふれあいを深め広く社会を知る体験活動の機会としてもらうためのイベントです。今年度は8月6・7日に開催されました。

しょうけい館は戦争によるケガや病氣で苦勞した戦傷病者の経験が学べるプログラムとして、乃木式義手の体験や証言映像の上映をおこないました。

戦傷病者がケガや病氣のためにどれほど苦勞したのか、そしてその苦勞を乗り越えて生活を送ったことを多くのこどもたちに知ってもらうことができました。ご来場いただき、ありがとうございました。



イベントの様子

参加者の感想

学校の授業では分らなかった戦場の痛さと戦争の後のことがとても分かった。実際に自分の目で見ないと戦争の真の怖さ知ることができないと思いました。



10代男性

戦争が終われば平和が訪れると思っておりましたが、戦争に戦後も人の人生を苦しめ続けるということを、実感しました。



30代男性

今年は戦後80年なので、小学生の子どもを連れて戦争について学びに来ました。新しい戦前、今を戦前にさせないために、私たちはどうすればいいのか。子供なりに考える機会にもなればと思います。



40代女性